



慶安大平記 九目錄

一 凡橋右孫下捕之事

一 園口牧野各置口援之事

一 由井正言自害之事

一 足洗村子孫下捕之事

一 吉田初吉上捕之事

一 金井半兵衛口援之事



慶安人年記 凡

凡橋忠孫召捕之事

去程いり小石いし若良わか八平やち覺あ松村まつむら友人ともと生捕いけて取とりて事始こと
 として候まうびいさみ忠孫ちゆうそんとて送まわりける忠孫ちゆうそんが御ごしきいふ
 江戸えど弓町ゆまち大石おおいし源げん忠孫ちゆうそんとふ人ひとと下宿げしゆくをしておまへの塘たにと
 まくふて門かど下したりして引ひきておまへの長なが所ところに年慶安ねんけいあん日年にちねん
 辛卯しんまう七月しちがつ廿日にじゅうにちに新あらた年ねんに別わかれ捕とらひてち力ちから同おなじに於おかへ

やあひけんかよ小より源で協指と送り小取置不^ト自害と
えけけるに石^い言^いの^い進^い指^い人^い是^いとえて兼^いて^い用^い意^い
く日^い洗^いの^い糸^い毒^いと^い及^いつ^いれ^いの^い如^いく^い打^いけ^いれ^いハ^いた^い孫^いう^い扇^い
は^いこ^いま^いし^いと^いあ^いたる^い息^いら^いく^いと^いこ^いを^いり^いと^いふ^いと^いた^いお^いれ
け^いろ^い大^い指^いを^い交^いわ^いる^いあ^いり^いて^いる^い白^い小^いの^いこ^いぞ^いの^いま^いし^いけ^いる
喜^いれ^いと^いら^いも^いあ^いら^いう^いな^いれ^いハ^い花^いハ^い火^い事^いと^いて^い裏^いに^いか^い生
る^い不^いと^い一^いと^いし^い小^い松^い波^い孫^いを^い命^いと^い三^い交^い捕^いの^いか^いる^いハ^い花

の^い浮^いたり^いと^い飛^い志^いし^いと^い三^い天^いハ^い寸^いを^い協^い指^いと^い指^いて^い尾^いの^いな^いぐ
り^い切^いを^いふ^いハ^い孫^いの^い命^い相^い切^い切^いて^いと^い孫^いの^いこ^いと^い三^い交^い不^い原^いハ
飛^いで^いつ^いる^いハ^い花^い事^いも^い及^い振^いる^い一^い打^いて^い孫^いの^い打^いたり^い何^い
と^いし^いけ^いん^い柱^いの^い切^いり^いお^いむ^い汚^いえ^いハ^い打^いお^いけ^いれ^いバ^い原^いハ^いさ^いう^いさ^いず^い但^い
外^いし^いと^い不^いなり^いカ^いミ^いなり^いハ^い花^い終^いに^い原^いハ^いを^い但^いふ^いせ^いける^い大^い塔^い
お^いも^いま^いま^いで^い上^いな^いら^いハ^い花^いと^い生^い捕^いける^い止^いつ^い際^いに^いた^い孫^いが^いか^い房^い連^い
刺^い快^いと^いハ^い花^いが^い紙^い持^い不^い白^いに^い引^い使^いの^い欠^いと^い心^いて^いお^いと^いぐ^いを

備後とて四不持の本の之に書とむき九は月六七里の
たなり是がをりきりてた系永山、對面を彼者にけるハ
神と入部、拙りして、應、是、非、は、仕、合、を、係
右、派、の、妻、の、御、少、て、連、判、状、と、焼、捨、た、る、こ、り、一、所、り
是、の、満、足、な、り、し、よ、三、田、之、肩、を、引、て、先、て、け、る、ハ、連、判、状、
焼、た、る、事、神、と、組、付、た、り、と、し、い、た、り、事、め、せ、と、さ、て、何
何、り、バ、ら、る、る、べ、し、以、前、の、事、お、今、系、朝、介、を、上、に、知、れ、た、る

たる条夫れ以て不蒙なり必定智らる人の福小て此由はと
不弘免神、不、御、少、を、連、判、状、と、以、て、定、知、小、石、押、捨、さ、
方便なるべし、必、御、少、を、引、て、先、て、又、強、河、事、も、亦、万
ふえなり、是、は、早、途、踏、向、り、て、西、を、隔、り、い、う、松、と、る、る、べ
し、と、ま、け、の、バ、ヤ、人、も、け、系、を、な、り、と、て、以、系、永、山、ハ、顔、山、派、と、
し、其、田、も、上、畫、な、ど、お、欠、て、次、を、移、入、八、王、寺、介、甲、列、身、也、山、
は、た、い、踏、向、と、さ、し、て、急、き、け、る、三、田、ハ、使、り、る、所、存、な、り、れ、た、老、人

口にしたる所小治の禮もふ小住せざりしと云然るに 公儀小

八藏と考問は花けらにふとぐを由状に及ぶ依り大正源也

殿ハ下屋しふ小治孫さしをたると小依てふ届々に思ふま

此知り石よとれ父子をこつりやの今宴に又云々い

松田孫と七首依こ寄る亦友人ハ長孫ハ長捕たる事と云

と等しと友人書子と連れて逐つ事すそ夜捕ゆと

らカはん此分一也長市中古つ書門一子辰と物とをい

也孫ハ人下捕る又矢傷永的と所人依り村本治又

とをい免はすこ人生捕る云々い喜吾と孫念長迎

髪を切尻とならる子孫長捕るれ別後出ぬと成也叙けと

なまろ是ハ口一懐懐小もつふんるとの此事有り一巨尻と有り

し者なるハ夫々一年中しりて此をい阿る又孫念長住居

記列大能云極ハ凡口々を叙れ父子はこ

大子ハ口は後殿つて御家元安茂等力殿ハ口は

其の家申は詮義くこといふ事つ飛少の地こわし七人
 飛つ作付とれ別等か及此類とならる且外九七人切振
 早三人八紀列日高ともふ遠等江作付具と実の
 牧野安富三人お石捕るべしとて大系主なる殿下兵部正
 木茂門三人捕りておふ実には華人牧野兵部安富門
 江七年前と申お此類おて頼町八丁目野野九郎おら
 御一き三居けるお捕りておふ事おらたらく思ひりん

三人お切振を無るに八名お白状お依てお川の毒を
 一酒油の毒を死る事とてお遠一けおはる申
 お解らつて水道の水呑ぬとて又酒油は酒を買ひ
 来る事とてお依と作付とれ別とて火を引かばい
 火油を汲人を殺す所とてお引かばい
 自らおとてお子本の事たしお強し事也

由井お事自害の事

玄禮に七リ九日朝西宮上下十人府中へ入
た六日と夜にワ時いたるバ諸府へ町九町と焼立を
く無きと在入取久結少小は龍王津の首端に打
細玉塔を防をべしと告ぐ時刻を居たる時
たふく子朝西宮東向のたを小ははにひけら
は戸のふとむひてふと祿免はうりとして居たる
仕治は新をえて行事を以徳者とふ西宮届ひて
あつたたりと知れたりけしふ思事多とふた

けるハハに戸なるにふてふ思事運氣行是令入
あつたたりと知れたりけしふ思事多とふた
軍に別とは肩下ヤたる入屋外をさる事也
とふ西宮又其別とふた打兵梅や下女湯に飯
とふ西宮是とてふと打兵梅や下女湯に飯
下ふお名孫ハ下浦へ下たたり西は是悟り
とふて是は次ふ教古殿調や下知て十人へ

たやけつは然下ば早運ふ人とのお集免四城と攻居一
即時に久遠山小たておると立踏ぐ掛る西の廓を
とる部来はるやんはる平打として弘井右衛門退兵今
城守に就入たり極子いぶうと云らると云けぬは西を是と
笑てさてハ大軍破れし小疑ひなく一無といふもけな
企ハハ戸留め一時小疑ひなく一と云く日下と云ふ小入水人
定更し事なぬは今又人のものお集免久遠山小指免

玉のニケもやニケも切りしとして物ハハ不意とけがたし勿論
福島の如くも思たるべしなぬふいなるものたニケ海ニケ海
就集たりしそらぐし事とけりし印も是まふは何々
先ん更ら必死の時より各ハ是より逃れて一命と云ふ
如く出せたとげらるべしと申ける人の詞と様と折けし人
小のりしてより十八年一命おりて西宮に集りてし者
なれば義と令候小比すべしと云ふべし今日初小方今

實とを返さず末代ふ事の名を疎しんやと各々覺悟お
免てえへければ西を候でしけるハ各々の心中清く次
備えり今家祚進そ神牙をぬバ名々の忠んけ世
てハ頼ごご一末末承て文筆を係るまへ一秘云け諸の
と十をたまふ取ましく陰秘の思免たりも神くす又切
おろ福をぬバ一ハ切破安くと候べけん死すべし候ハ
死がれバ却て不覺の名と疎す是を今くぬすく恥ぢる事
いハテよく肢切て名を末代小孩とて一強ぐ氣くまな
りりける九章中よりしけるハけ於る及んで今くく世にけり
とも西宮の思を返り安をぬハけ安の大勢かくやうくと疎
たる事一海に名をぬハけ安をぬハけ安をぬハけ安をぬ
やとしける西宮を返て各々の不覺す事あるはた何んを
免末末承ハ名を神アく二男あり
將軍則 傳のがみ
名父く物なり神にやハる人々中ハ名を神ア傳代の教

いハテよく肢切て名を末代小孩とて一強ぐ氣くまな
りりける九章中よりしけるハけ於る及んで今くく世にけり
とも西宮の思を返り安をぬハけ安の大勢かくやうくと疎
たる事一海に名をぬハけ安をぬハけ安をぬハけ安をぬ
やとしける西宮を返て各々の不覺す事あるはた何んを
免末末承ハ名を神アく二男あり
將軍則 傳のがみ
名父く物なり神にやハる人々中ハ名を神ア傳代の教

たゞ君父の仇を報じんとす不_レは_レた_レり_レ 慈ハ名_レ録_レシ
まの方得た_レん事_レ 当然_レの利_レ也_レ 今大_レ帥_レ之_レ室_レを_レす_レら
たるも_レ令_レ名_レ録_レの_レ不_レ平_レ量_レ不_レ信_レて_レ行_レふ_レを_レし_レ少_レ少_レ行_レふ_レ事_レ
企_レと_レり_レ十八年_レ今_レり_レと_レモ_レ人_レと_レモ_レ満_レく_レ事_レを_レす_レく_レた_レん_レ
小_レハ_レ名_レ録_レも_レ天_レ下_レと_レも_レ入_レん_レ保_レる_レ刑_レ 今_レ日_レ不_レし_レて_レ得_レ
て_レ事_レは_レ今_レ生_レる_レ事_レに_レ行_レふ_レを_レし_レ遠_レく_レの_レ物_レある_レが
忠_レ録_レと_レい_レみ_レお_レも_レれ_レ経_レく_レ神_レ入_レ大_レ帥_レ或_レ就_レ成_レた_レる_レ支_レと_レも_レ

と_レころ_レ 兎_レん_レ事_レ 海_レ高_レと_レ名_レ録_レす_レら_レと_レ天_レ下_レを_レ當_レに_レ
と_レい_レの_レ八_レの_レ人_レと_レ人_レと_レは_レ集_レめて_レ初_レに_レ謀_レる_レが_レ末_レ代_レも_レ
と_レい_レす_レら_レべ_レり_レぬ_レも_レ是_レの_レ末_レ初_レ倭_レび_レや_レと_レめて_レ春_レ庭_レの_レ名_レ
と_レ礎_レて_レ髮_レと_レり_レ身_レを_レ信_レみ_レ着_レ服_レと_レ行_レた_レを_レ各_レ々_レ寂_レ然_レ
の_レ支_レ交_レ急_レぎ_レり_レる_レ其_レ以_レ諸_レ河_レ以_レ城_レ作_レハ_レ大_レ久_レ保_レ云_レ書_レ後_レ
以_レ船_レ安_レハ_レ及_レ田_レ藤_レの_レ部_レ一_レ及_レ以_レ鑑_レ別_レハ_レ大_レ久_レ保_レ云_レ書_レ後_レ
訓_レや_レ山_レ所_レ存_レり_レハ_レ名_レ録_レ合_レ小_レ名_レ録_レ及_レ以_レ互_レ載_レく_レ在_レる_レに_レた_レん_レ

いづれは戸の釣井右衛門進及は元分目下宗室と云う時
と云ふまゝの山城守は伊豆も及く手書とお添へぬお
消し今更由井西宮尾指おとふよの豫親と企て治人を
集免六六と秋はた強いとい時、境拂多しと豫親と
御人足取り申すも西宮ハ高洲の石橋とて先通る由
是のまゝ字連下捕へしよと云ふて某目附とて子孫
たすく不具ついでお伸しらす、是に依て互敷く宗室
御人足取り申すも西宮ハ高洲の石橋とて先通る由

是て先務も入合別して久保山と雲免とて一と一
戸入合秋田甚房も及く石橋阿部川六と田中友成
二の場おて雲免は且お湯も入合まびくお雲免と
け時久保山と水越志以流平神系新中も及く加倍と
義本今古の殿天野何某各足強と云ふん下弓飲泡
小て相議る中おと大田宗文おとカ内心三千人新兵万人
引争して一塔くおとけと定先弓餘泡お下新洲お

さへ用公まびりて傳へりて其後此河守河守と藤合山平次
初見所人たと世にあり作消けるハハ成ハ年表少々
喉渡一人と名免互返たる者當代ニ居る上野
世吟味万々録のこ改出たて別世あるべの訓とらう海也
野々果のるして止宿に書掛名あり 紀別大初云々衆
其とて一して道中分病氣あり今从ふと云々依々表生々
おとてた日か上トナ人遠返仕り居品其月と口も發々

男三人信と人あつたに挨拶あひま朋輩ともと云ふバと云ふに連つれハ
親したしくも持も二揮おおままうういいううはは是こゝにに依よりて思おもははす
ふ人初はつに居ゐるるををけけるる所ところにおおくくののびびんんとと初はつと云いふ
以上書小た遠とほきき一いつつもも疑うたたるる西にしををるるやや一いつつももハ
笑わらひひ者ものたたくく好このまま上う下げナな人ひと石いし連れんたるる一いつつもも宋そうのの病びやうをを定さだむ
あなままるるべべ一いつつもも取とりりててハハ一いつつももくくいいののちちららふふんんとと評ひやう系けい
ままららくくやや藤ふじ合あひひ、、等らけるるハハかかららるる者ものハハ別べつのの訓とらう、、後ごし

いとお勿論と紙をながしけりハ吾人となり一若吟味と可
けりバけりよハ紙つりと返景以居合及案にお遠しと
思くよままとみるはたつし小瀬しけり三浦し後洲のそ
ハ又けりよハ西を毎夏石と接取あてらあしけりけり依
各に給らうく口りてくれ度けり既小其状ふつ時と
各と使としてまけり其意及井原おか人おと
けりハ紙物九橋島とけり既捕たる其もやと正

お定て右捕べりけりおと申是に依て久保及大寺小
セ既成世と給り既事三事也けりけとハ東にけり
引立来るべしと既小其用と念けり小寺後及極くなだ
先りぬどおしと申入れぬと元来極く大久保けりけり
其元小ハ申述り外既捕又交けりべしと申けりカニ
ととて海上下るおと人及く丸の飯所と高燈台
十張もめとと小しお東米とのかたぬ梅ととととと
柳

は言及及とハ久保セ新也、忠と云一人之ニ言ニ
曰長彦後之會身にて今年七月九日往古 家康公信云ら合
御之時は言及及殿十日早御して初陳の御子孫と云一云切
人にて同年と云十二年と云初御より別御を信より御りて依
高田ら八と云て中御りけるハ今朝も多に及ぶと云も
不依て城代大久保云高野正之御分より一云切は
存作也、取次、野、然、言、詞と云ら、け、御、人、一、御、

が御知りてたがひ小首と進して生捕り、今生る、思ひ、
一合戦して、御、切、死、
御して御、
切、御、
死、
ハ是、
御、

塚代のこま糸をぬるバ針をてびらうり成徳一たるとあは
焼く夫小ねはしと作ちるとして止言一夫しん又交
及びけら西言肌小ハ南響飲く淡味子と何物子く野
袴小赤地く折く陳ね織と若歯を淡採束ハ馬小深
扇小何れで扇と何折小若色の若き袴帽子をかぎり全派
とちりを免たる陳刀と帯一麻机に掛けたる若の西句
衣も板又十人く着たハ世ひくの採束上ハ袴ハ

く陳ね織と若一その後若小列びと針を何はるべし
若若の入りく一戸をひいて針何り云若取殿内く袴と
少後何には其形皆一若若ふと若一きと若とつと
ておんき皆ハし若と若くえしつら西言若の若と若
杖と若きと若くくと若の若と若と若の若へたる針をす
若若の若及若をけらハ若若き子細何つて若く使と若
針と若といども若引こよつて若引をりハみ久保言若

定る家と遠き世をよしかたくすむをうり小道は金く
残りともいふまきまや別道くお附と添わきよれが残
死し後け振と公儀持處り遠うくまもくわさるべし
とて若全万枚金子ふ取おし書至きとちて細
流小儀りも其後け事披流治しけらお遠うく細
小下系ぬけら別細糸の流きハ取とちて小川町
小流流しれとち世ぬけ別家と遠きひたふ小正
と

書流と申いける細糸く流きとせ、西を流きと
号して今いた、とち人、人の住居をながり、西を流きと
初糸と申、若き、ながり、且、り、初糸事、とち、金子三
ふ、直書、初流、入、初糸、小流、一、西を、り、け、ハ、初、仰、通、橋
不、傳、と、ふ、人、の、娘、居、と、ち、今、流、念、小、住、居、せ、ら、ち、初
を、流、初、て、け、金、子、ら、書、至、き、と、ち、子、建、始、り、る、べ、一、五、三、
と、初、み、入、る、と、ち、け、時、始、る、不、傳、と、初、初、事、一、少、殺、也

事お嫌^い悔^いして小^こ少^{せう}しく方^{かた}に申^{まを}す返^{かへ}りて西^{せい}を今日^{けふ}せそ
申^{まを}す至^{いた}る事^{こと}なりとて麻^あ糸^{いと}小^こ不^ふ作^{さく}作^{さく}し一^{ひと}張^{はり}懸^{けん}
湖^{うみ}天皇^{てんかう}勅^{ちく}是^{こゝ}南^{なん}台^{だい}大^{だい}塔^{たつ}之^の定^{さだ}の令^{しやう}引^ひ伯^{はく}保^ほす安^あ保^ほ
くおたる氣^き水^{みづ}く大^{だい}力^{ちから}けこふく室^{むろ}お希^{ねが}澄^{じやう}甲^かとさざり
一^{ひと}返^{かへ}り書^{かき}至^{いた}るお糸^{いと}一^{ひと}各^{おの}口^{くち}せ旅^{りよ}の小^こ袖^{そで}と糸^{いと}一^{ひと}西^{せい}を正^{ただ}
而^{しか}三^{さん}糸^{いと}一^{ひと}何^{なに}とぬ右^{みぎ}小^こ列^{れつ}花^{はな}も決^{きま}め夜^よ夜^よに一^{ひと}酒^{さけ}懸^{けん}
とましえす人^{ひと}く者^{もの}たさ川^{がは}ささしと住^{すま}ぬしたりる

西^{せい}を申^{まを}すけるハ誠^{まこと}小人^{こじん}不^ふ家^か初^{はつ}く一^{ひと}念^{ねん}小^こちて益^{えき}要^{やう}く生^{なま}と
けりといひ一^{ひと}生^{なま}ハ万^{まん}年^{ねん}の疑^{うたが}と保^{たも}ち小^こ列^{れつ}くふ業^{わざ}年^{ねん}も
終^{はつ}小^こて終^{はつ}行^ゆり今^{いま}生^{なま}ハ夏^{なつ}の味^{あじ}未^ま来^{らい}より打^う要^{やう}を
此^{こゝ}小^こ廓^{くわく}ハ一^{ひと}交^{まじ}り家^かとす伊^い保^ほ小^こ行^ゆぬバ女^に信^{しん}於^おむ
ちうといひ一^{ひと}首^{くび}く禱^{いた}をを糸^{いと}一^{ひと}ける

秋^{あき}をきたらどなまをし一^{ひと}せこくもよとさくさく小
けい^{けい}く^くおのき^き備^びをなまらん

く祇して後十二文字のき切バ廓は海に立入り女指す
然る女指も安見え言来物野に都古うはいて後と切り
口とく廓は女指安見え言来美に海と来手に口と首小
うけ急くきりしてかきと海も毒門に治有竹作はあさし
遠くはくと死を具卯う人みるへ振切り果達の旅路
に越さける言来復ちる永物元ハ越言あけ弁と小指之
しかけ初り方んでんは懐は切旅しと初立返しと終小生け
揃ぬ永く鏡目のたしと踊り考問く養とくけ
い命とくくゆぶで流之小お果る海留しと空けるなり
たうらうらうら^{とこら}海合^{あつらふ}手流及弱井者来出及る指し
押もも初も小果門もてえ終くハ既小自書と乃バ
けらと一各く一頁小果び入んとと一と西もと流て必と
致る世打て柱に知引と強りけのハ客鳥入る事
たて次とるく口と書と知引と押初と一と余を廓

く祇して後十二文字のき切バ廓は海に立入り女指す
然る女指も安見え言来物野に都古うはいて後と切り
口とく廓は女指安見え言来美に海と来手に口と首小
うけ急くきりしてかきと海も毒門に治有竹作はあさし
遠くはくと死を具卯う人みるへ振切り果達の旅路
に越さける言来復ちる永物元ハ越言あけ弁と小指之
しかけ初り方んでんは懐は切旅しと初立返しと終小生け

華も次娘の致し平内が友統と切縁を結ぶ可し
捕りの方際一同に切殺りし廓を其方のけりし
即ち小口心七十八人切殺りし東風を致し内村打手
ふゆ珠の杖に廓をわしむるをどしお免さけしけり
こふ処を小口治兵衛下注し令て流しお廓を
扱と實をもん治たりし折りしる口床に小切処み扱
んととゞり列に安道軍八さきさつし何れは捕るか

かる廓を治と扱と折りしり家敷小打けし八軍八の眉
といたし小打也くさぬ廓を全名小あふ流し
燕眼くしゆととたさる林八物足とて組んで
んと出む訓廓を又むつくと起し八物と口とをみ
八物が扱をさるよとよさしはを殺しはく
ふせ小ならて突あひて死たりけるは佛人
えつぎりける廓を人しる口とて実を結ぶ可し

八人曰殺しは願ひ八人誠ニ氣代末の事たる夫が
西宮始て一人の死骸とて懐懐として入る所
至き一訓もあらずに不仲の儀もこの家の
弟之禮申す令八人の書をもて是則披也何るに

一 乃悲しむと書や言と

今方好者もろ私九級送る松之遊 上字にむらむ
引傳と手好の偏私好る者何れ天下に對し恨もこらむ

謂世の生は強無天下を割る法不違ふと上下國竊はる所
是とある一書に松平能登と殿是と云謀ふ傳言
忘石時と遊と却し是と人とも一書中の空一書に
成事一是傳と天下を果と手好の私ふ者何れ天下を以不
る松之海井讚談と殿等と遠傳と一書と謀殺と松好
ととて其城仕の修りとして其とふていふ松も可成れ
中も其今送るお成りのを能列方細と松以名とま信り心人

教のたふしひく^り依る^り多^く折^ると^も以^て名^をと^り存^すし^て以^て私^を何^れと^も
以^て扶^けり^て依^る者^は、^り行^ふ事^も上^と長^弟教^を受^けて^は以^て私^を何^れと^も存^すし^て以^て私^を何^れと^も
い^ふこ

由井正雪判

慶安四年三月廿七日

書^きた^り是^は如^く夜^中に^て父^を執^らし^て事^を思^ひて
以^て讀^みて^は敵^と名^を書^きて^は今^年に^は一^とも
平^生に^はい^ふ事^もな^し佛^法に^ても^はみ^みに^は十^二練^六と^も小^道
い^ふこ

一^と是^は法^を一^とに^て之^を事^を以^て小^道に^ては^も一^とに^て事^を
小^道に^ては^も一^とに^て事^を以^て小^道に^ては^も一^とに^て事^を
一^とに^て事^を以^て小^道に^ては^も一^とに^て事^を
一^とに^て事^を以^て小^道に^ては^も一^とに^て事^を

足^は村^に在^るに^て事^を一^とに^て事^を

日^を六^つに^て田^を作^らし^て考^へて^は小^道に^ては^も一^とに^て事^を
日^を六^つに^て田^を作^らし^て考^へて^は小^道に^ては^も一^とに^て事^を

提刑に倭母年廻りけるは...
一命をたしめ...
何れは...
承る是と...
御も...
寺中...
列と...
お...
彼し...
おの...
取...
取...

提刑に倭母年廻りけるは...
一命をたしめ...
何れは...
承る是と...
御も...
寺中...
列と...
お...
彼し...
おの...
取...
取...

七ら依違やい十六箱むくろ昔むかし七振しちぶ遣や十額じゅうがく中なかつ持もふ十牌じゅうはい惣罪そうざい文ぶん也
百箱もく少すく箱はこ共ども小記せうきをいいと毎まあらぶむ張ちやう多た三人さんじん申まをて二日ふたひ二夜ふたよう月
書かき記ししりつと人ひと其後そのちて四終ししゆう年ねんあつてはけり一家いけ中なか定さだまりく
守まもつりは作しやうけけり是こゝるに是こゝ田でん永えい山さんは京きやう二人ふたりハハはははふふふふと
越こして七ななつつ小甲せうが列れつハハ机きハハ誤ごハハ志しとて諸しよ阿あへへ孫そん子しとる
おおしし刑けいハハ大だいめめにに西せい宮みやう自じ害がいハハ及および諸しよ厨ちゆへへ町まちハハ諸しよ切せつし
はは名なハハ道だう路ろへへ四し別べつハハてハハ所しよ入にゅうる事ハハととととととととと
笑わらへへけけぬぬババ三人さんじん今いまハハ論ろんららうう自じ害がいハハんんハハ京きやう永えい山さんハハ切せつ大だい丹たん
宗そうつつてて自じ殺げつハハううぐぐとと法はふありとて三人さんじん宴えんハハ雨あめててううとと申まをし
わわくく二に方はうハハももははおおてて霧きりハハ隠かくれれ辰ちんちちけけるる宴えんにに稀ひををふふ良ら懐わく
及およびと時ときハハももハハをを解とけけ少すくくくけけるるががけけとと諸しよ切せつハハ依よて
懐わくくくハハ惟いおおててうう是こゝにに玉たまハハ帰かへりけるる別べつ箱はこハハ實じつ刑けいと
眼まなこをを見みるる是こゝハハ京きやう終しゆう人にん候にと捕とらまましし目め附つけハハ山さん切せつ解げ申まをすす
にに作しやう付つけてて是こゝにに申まをすすとと之こゝ中なかハハ飛とぶぶもも小せうむむちち折しやうて

京大坂にあらける

吉田初志の石捕り事

吉田に吉田初志の金井の京大坂の石捕り事
けり大坂の先年より一礼後ハ福路人永く遷居ハ此迄
や依る吉田金井も大坂に住居をりてあるに或は
鳴る湯浴のたぬとて遷居も然るに六リ下町京大坂
此後市言ちり下町にありてあるに八石の石也又此

逐鹿事松田清一又京大坂の石捕り事
金井の事と志吉福路人と清一訓せり此の事
飛脚の事と志吉福路人と清一訓せり此の事
此の石江崎と横井の石言ふは石の石也
石言ふと定先は石の石言ふは石の石也
と石言ふは石の石言ふは石の石也
と石言ふは石の石言ふは石の石也

と山崎の急が洲に止るおる人致二三人有るものゝ
来る金井公ひけるハ今既人名義の交代と成るべし
也此の世に是と云ふ者井八の御小舟遊子と云ふ
是て此来る金井大守小舟遊子ハ大御殿御遊
石捕れし是たり是後何と云ふの事と云ふ
夫と云ふはいつと云ふはなすべし是が金井八取て
野と師の里と師の里と云ふはなすべし是の事と云ふ
初

ちのハ有る遊子ハ人長吉川ははるおる
本年十一月廿二日
初七日の事及御し是等と云ふは
一けるが事及御し是等と云ふは
山崎の急が洲に止るおる人致二三人有るものゝ
来る金井公ひけるハ今既人名義の交代と成るべし
也此の世に是と云ふ者井八の御小舟遊子と云ふ
是て此来る金井大守小舟遊子ハ大御殿御遊
石捕れし是たり是後何と云ふの事と云ふ
夫と云ふはいつと云ふはなすべし是が金井八取て
野と師の里と師の里と云ふはなすべし是の事と云ふ
初

能くぞと辨原に於て一戦を言田ハ々色ては乃即小
報子あしけりぬバ別致とあし一平言ハ論ひさうた
言田ハまるをいしとちとあし一まる板お大敵と一是と
たのしむつや山るこみあし一のうけと一急を
餘念より長く訓に中山初解ゆるる小世若らつて
口伝と志のち業門と使に金井ハ山崎ハお言田何
つろく調たのしむつや下任あんと是れ依り中山ら

カハ七人雑云百人斗一をよぬに海おすき乃きに取巻て一
加夜又古史とよる初ちあが大敵の初子とあてしあしなきあ
捕たとりやて文る夫が取眼と打撃う二番に尻山又予はいてか
いるを引をばし抱丁を投つるぬバ尻山う咽あへりけり若板を
打はしぬる初ちあしとさうさうさうさうさうと小脇さうさうと二階お
さうさうけしるさカ口を鑿てしと小しとさうさうと初ちあし
一だておふり即時七八人突殺し其隙に坊子と二

階上引上げればつゞき揚ふん候りて捕まの太階いた
とふ上と白眼ておんたし初なる二階に格を破て
影とちしき油ハハ留へ根籍仕ると呼りけりハ中
山及すれけりハバけり申す申す申す申す申す申す
ハ自害及ぶち録ハ石捕を是に中山和解申す捕
しと花白たり神如二輝とりれとやけりハ石田交り
然ら上ハ是罪なきに攻め之候し油ハ待とる法と紙

花む葉門と候りて其候も及をさる事作法と紙ふぬ
近夫をとり中山及き神の如きのおハ玉と礼一氏とが
此と玉城より何とて侍と捕ら法と紙て是かと申す田矣
て油ハ神と紙て玉城と紙ハ油ハ巨人と紙
家康と秀頼と天下と登り玉城と紙下ハ油ハ
善し玉城し又玉城をハハせりて何れ人立候
と申すもハ油ハ神と紙ハ神と紙人お申し又油ハ

出死に者なり人なる人少く少く分り神おく歎き辰末
死に思ひおこし並に禮おえさるる懐中にも矢の根取
十が取おこし並に叙たりて危小くたる松之根と打
を平と有る事さく是く打敷く其に係る禮とえけり
小人と有る事さく是くおせりける其後初なる也人必ず
又字の口ともおこし並に叙たりて危小くたる松之根
大新何れは運命にありける事さく是くおせりける
神は十七

余り余は信じて死にけり此は神に神と信じて
いせりと信じて死にけり此は神に神と信じて
世に死なざらん事とも今文に書きて
其は信じて死にける事さく是くおせりける
これに信じて死にける事さく是くおせりける
信じて死にける事さく是くおせりける
信じて死にける事さく是くおせりける
信じて死にける事さく是くおせりける

誠まことに生なまくせの世よ思おもひあり果は然に年としを其その法は法は子こと
 生うまま身み々々何なにとして世よ終おひついで未ま練れんの御ごを侍まへ
 中なかへ世よ後のちうま切きて誘よりて其その途ぢを以もつて依よりて其その世よに
 せし繩なはるぞうけ糸いとよ事こと思おもひとらむとけ
 此こバ初はちとせきくる洞ほらと止と免まん大おき小こ河がりけら夫おと
 程ほどる事こと思おもひとらむ言こと田た小こつと世よ思おもひバ我われ今いま年とし
 害わざとハ強たくバ大おまの朽く小こけし又また世よ思おもひ繩なはと柳やなぎ

世よ思おもひとらむ捕とらむと世よ思おもひとらむ世よ思おもひとらむ
 子こ柳やなぎとらむの世よ思おもひとらむとらむとらむとらむとらむ
 捕とらむハ天あまをぬと世よ思おもひとらむとらむとらむとらむとらむ
 世よ思おもひとらむとらむとらむとらむとらむとらむとらむ
 八はげをの月つき思おもひとらむとらむとらむとらむとらむとらむ
 とらむ思おもひとらむとらむとらむとらむとらむとらむとらむ
 とらむ思おもひとらむとらむとらむとらむとらむとらむとらむ
 とらむ思おもひとらむとらむとらむとらむとらむとらむとらむ

初めやとふす及節もゆへー重くの世世いつくせ
報し事をも折と者けバ初めと何るもハ是れ多
仕女と潤面と二體とよりて立むよ初めは懐が
あよと色一髪と志免よのしあとも免よと折急け
あよと二階ひつらよ小よいぬー免よ及節潤るうれ小大
歌とけあ西宮も跡小組一太極もの大拍小い
吉田初めとし名長谷川も及節と生捕たこと名案

えしおとねらー初めは目めのまゝ引長は初めは下
捕たういりある死ぞ縁縁よと及節及節修修くの吹牙吹牙と志く
しとる初解初解及も其白底と威トける別金井が事お
出教出教もけのバ吉田一説おもは依依て吉田も谷川も人おバ
大坂も攝攝代内及豊豊あち及は内候内候もあまの中山及
笑笑ふ系歌とさして急ぎけり時大坂内候をハ保野
深深正正也也及福福徳徳指指律律ち及之世所世所存存ハ弟弟根丹根丹及

取也

水取市古の古捕する事

其以京師の諸司ハ板倉園陽及所存ハ凡鬼犯
おち取くする小中山和解や及ハあるときて急ぎ京
師有り二条より城ニ入らて板倉殿、新白を板倉及
急る中山殿の心、急に依て加茂寺古の宿之条通り
和泉守令と京が通判くお係存との取迎は急いふ

隠し目録とけりさ一巻、別目九々令と急いふ
要知の取あるに急ぎハ先通言逐電一板倉ハ親
より急事ハ行きたる一と急る依る中山殿ハ急七十人
京師くらカ口をた、急令と京人別して捕も急いふ
撰として十六人急事ハ急る急令と京人別して捕も急いふ
及ハ大急の人救子急事ハ急る急令と京人別して捕も急いふ
つらふり急事ハ急る急令と京人別して捕も急いふ

もし祝ひさし揚屋の豊後や石物といふ名もふりて祝
弟の如くおもしろくもすちの如くして金取と前ちり
たのしむる原市ちのハに猪のお果と受けが命と投
おれ残べし一息志願わし知ふぬ命を今も命と投
しみる心とほ救きかたむけ群をる次申す及ハ大物と
降息をぬるれすちの第ハ天下の因人もぬハ物ほと世
知取ぬさしとよめ、ゆふふふ一第ちやちもるぬハカ協

さしむる遊洲のまざる孫の心けよ首尾よく石捕後ハ鷹
笑しとや一とむけぬハ大物取しとち新しおけまゝる心
その口協指の候ハ石しきいぬに次神のりハ新し
口氣をへる一に心後一ちのと別捕よ、葉内依る捕
く名もすし人子別と定免は身り、小忍入お果の別お
侍るも多物ハ如きと強ち二階ハとく小くた三味味味
石舞とて表川さしむら大さおてちちのち教をさし

免依りて市ちの神を以て牙にさし置けり
糸と松と一と茶屋もまた次々
屏風の外に投書一時刻とゆりてけり
と糸糸捕りて名入綴るべきも
る野あて正斬りけり
まればたたりと捕りて
下はあらし原八市ちの首と押へる押紙利の伝形

毎火と引掛んと立ちけり
て引ふで踏殺り大塔一層
ハヤ一飛とて野をよぎり
まれば天井ひくけりハ野長と
た免らふ洲の西よる物
井九物をとて飛で掛り
とまら洲と流井か
て

自之大事とまゝに判るゝのバ加友曾何る大陰代衣とまゝに
仰く事何たに次服くことゝも倒れる大路まゝに
をりし事ちあが前小甲岳とくけと分押へり免捕
着れけりつり極えさぬバ洋もハ女事するハ救事
ハつを候とまゝに目次の情と紙トバガハをザの
つりて事するに此別にお糸とて中事一不実と心
愈たまゝに小地をさす私け女後ニ要病と文して會

く新小そりしとろり是と知る其不仁と情まゝ人なる
まける衆禮もちく物小還来、餅をけりつとや誠小
つろ不仁と心とバ天比も見放しお小小や

金井正と糸切綴る事

其辰夜念殿之捕もく若浪人曰十八人石捕けり別
ハ藏と目吹とて吟味するに内八人ハお遠る事
小其候以先んておつるにハリニカ大坂天王寺とて

小切振の物なり別検便に取改之別主條條に改
別字お辨しき運ね三重の給りて振るるの改別と付
たると給したる男は條條後うき切り其刀と首三片
きき給し瑞首のたふさと振るる刀と云小突きて死し
たりお代未了の切振るり別書するもの一色なり

今更由井尾橋が謀殺小知したる大改へ大給兼々
たる者ありいひを身とと白えりく山邊に給る

小越をいひるのありきと又云田初たる事
んえなく子運降り別高町に石捕りし条條
念にぬる切振はる者やは條條に振るる路を給る

慶安四年八月三日
金井市兵衛 土國

とぞ書たりけるは事也上と云ふ風字にて佐兵衛の浪人を
思ひし小御矢けりたるに八り口々此戸の早打来て由
別石捕別り者たし引て早送はるるべし伊豆守殿

とて^し書^しる^る事^事を^を依^依て^て中^中及^及京^京歌^歌と^と立^立て^て佛^佛に^には^はる^るに
常^常向^向なり^り京^京歌^歌中^中に^に下^下捕^捕る^る刑^刑は^は九^九人^人大^大坂^坂小^小に^に十八^{十八}人^人あり^りと^とり
と^と京^京大^大坂^坂は^は戸^戸三^三ヶ^ヶ刑^刑あり^り下^下捕^捕る^る刑^刑は^は九^九人^人大^大坂^坂小^小に^に十八^{十八}人^人あり^りと^とり
は^は戸^戸の^の町^町に^に行^行ハ^ハ紳^紳係^係書^書あり^りと^とり^り及^及石^石云^云石^石邊^邊將^將監^監及^及之^之等^等く
は^は三^三ヶ^ヶ刑^刑と^とし^して^て書^書を^を大^大坂^坂に^に引^引込^込め^めて^て監^監禁^禁せ^せり^りと^とり^り日^日毎^毎に^に事^事を^を行^行は^はす^すと^とり^り
は^は三^三ヶ^ヶ刑^刑と^とし^して^て書^書を^を大^大坂^坂に^に引^引込^込め^めて^て監^監禁^禁せ^せり^りと^とり^り日^日毎^毎に^に事^事を^を行^行は^はす^すと^とり^り

慶安大平記 九終



